

## 1. 学校園・市町村概要

- 教育目標：健やかで 思いやりがあり 志をもつ子  
～ふるさとの未来を拓き 創造する福部の宝～
- 所在地：（幼稚園）鳥取市福部町海士345-1 （小学校）鳥取市福部町高江188  
（中学校）鳥取市福部町高江485-3
- 園児児童生徒数（H29.5.1時点）



学年	幼		小学校							中学校					幼・小・中計
	年長	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級	計	
在席数	20	20	19	18	28	26	21	2	134	23	23	25	1	72	206
学級数	1	1	1	1	1	1	1	2	8	1	1	1	1	4	12

- 鳥取市概要：〔人口〕191,786人 〔学校園数〕幼稚園3園，小学校44校，中学校17校

## 2. 導入経緯

- ・平成20年度 福部地域における将来の学校の在り方についての検討開始
- ・平成25年度 鳥取市校区審議会における判断を経て、「福部の教育を考える会」設立（5月）
- ・平成26年度 市長・教育長へ要望書提出（6月），校区審議会より教育委員長へ「福部地域の学校の在り方」について答申提出，福部地域への新たな学校（幼小中一貫校）設置を決定（10月）
- ・平成28年度 鳥取市立福部未来学園幼稚園・小学校・中学校として開校（4月）

## 3. 幼小中一貫教育の取組概要

### ねらい

- 幼稚園を加えた幼小中10年間の一貫教育を行うことで，系統的な学習指導・生活指導の充実を図るとともに，地域・保護者と連携・協働して「自分の夢や目標に向かって努力する子ども」「自分に自信をもち，人を大切にする子ども」「ふるさとを愛し，誇りをもつ子ども」を育成する。

### 形態・施設

- 施設隣接型

- 現在，幼稚園・小学校・中学校が入る施設一体型校舎に向け小学校校舎の改修・増築工事を実施。
- 平成30年度（予定）から小学校・中学校は義務教育学校となり，幼稚園を加えた一貫教育を推進。

### 教職員体制

- 校長：各校に配置 ● 教職員：全教職員に兼務発令 ● 小中一貫教育コーディネーター：指名あり

### 教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例：独自教科「みらい科」の設置 ● 区切り：3-3-4（幼・小・中の10年間）
- 行事：ブロック別集会（ブロック修了式）

[→ 次頁へ](#)

### 教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：一部教科担任制（第6学年から算数科，第5学年から理科，体育科，第3学年から音楽科）
- 相互乗り入れ：小学校教員が中学校の数学科，理科，外国語科，保健体育科へ乗り入れ  
中学校教員が小学校の算数科，理科，音楽科，外国語活動，体育科へ乗り入れ

### 児童生徒の異学年交流

- 縦割り班活動〔幼・小・中〕（年間），小中合同遠足（5月），ブロック別集会（学期末等），「らっきょう植え付け体験」〔小・中〕（8月），町民運動会（9月），「鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会」（10月），学園文化祭（11月），ブロック修了式〔幼・小〕（3月），リーダー研修会〔小・中〕（学期始め），小中児童会・生徒会合同あいさつ運動（年間），小中合同避難訓練，「らっきょう収穫作業体験」〔小・中〕 等

### 市町村教育委員会等による支援

- 特色ある中学校区創造事業で，保護者・地域との連携・協働を含めた中学校区が一体となった取組を行うための経費を負担している。
- 福部未来学園以外にも，鳥取市内全ての中学校区に兼務教員を配置し，小学校と中学校，小学校同士の連携を図るようにしている。
- 「未来のとっとり教育創造事業」で，国の「コミュニティ・スクール導入等促進事業」を活用し，経費の一部を負担している。

小中一貫教育において、学年段階の区切りを柔軟に設定し、区切りごとに育成する資質・能力、指導上の重点、具体的な目標等を明確に定めておくことにより、教師の意識改革を促し、上学年への進級をイメージした取組を強化することができます。また、区切りの節目を活用して、児童生徒に発達の自覚を促すことも可能です。

福部未来学園では、10年間を見通した「つながり」のカリキュラムとして、幼稚園との連携も図り、3-3-4制の10年間の学びと育ちを通した教育活動に取り組んでいます。

● 福部未来学園の学年の区切り

「高等ブロック」で小学校と中学校の接続を充実させるだけでなく、「初等ブロック」においても幼稚園と小学校の接続を図ることで、小中一貫教育の基盤を作っています。



<平成29年度 学園要覧より ※一部抜粋 >

「初等ブロック」をスタートさせるにあたり、幼稚園と小学校の教師で互いの取組の分からないことや疑問について話し合ったり、小学校教諭による幼稚園での保育体験を行ったりして、相互理解を深め、「初等ブロック」の修了時にこんな子供に育てほしいという次のような子供像を共有しました。

● 目指したい子供の姿～こんな2年生になってほしいな～ (初等ブロック)

- ・気持ちのよいあいさつができる子
- ・生活習慣を身に付けて、元気に生活できる子
- ・友達も自分も大切にできる子
- ・福部地域の人に親しみを持ち、礼儀正しく接する子
- ・基礎基本の学力と学習規律を身に付け、学ぶことが楽しいと感じられる子

小学校第2学年での目指す子供像に向かい、幼稚園と小学校第1学年、第2学年の3学年にわたる関わりに広げた「初等ブロック年間計画」を作成しました。これまで実施していた縦割り班活動や学校行事(運動会や文化祭)に加え、新たに「初等ブロック集会」「合同学習」を加え、次の実践に取り組みました。

● 初等ブロック集会 ※平成29年度…10回を計画(児童会活動)

<実践例>第2回「ポッケにみつけ!はるみつけ!」

幼稚園では、自然散歩を通して、地域のよさや1・2年生と一緒に過ごす楽しさを感じることをねらいとしました。幼稚園の近くに自然豊かな場所があることに気づき、自分から積極的に上学年の友達と関わろうとする姿が見られました。

小学校では、季節の変化や自然のよさに気付くとともに、下学年に優しく接することができることをねらいとしました。園児との観察を楽しみながら、冬の自然と違う春の草花の様子に気付くことができました。



● 合同学習

<実践例>題材名「だんだんボール」年長児・第2学年の交流

幼稚園では、友達と一緒に工夫したり試したりしながら作って楽しむことをねらいとしました。2年生に教えてもらったことを自分もやってみようとして挑戦する姿も見られました。

小学校では、作る活動を通してイメージをもち、自分の思いや考えを広げることができるとねらいとしました。園児の発想や意欲に感化され、もっと面白い物を作ろうと思いを広げました。



5. これまでの成果と課題、今後の取組

「初等ブロック」の取組から、第2学年児童には、リーダー性、自主的な態度、活動の創意工夫、協調性などに、第1学年には、学校への慣れ親しみ、年長児への心配りに、年長児には、小学校入学への憧れと期待、活動の創意工夫、協調性に、それぞれ変容が見られました。

実践を通して、幼稚園教育の「環境を通して行う教育※」「『遊びの中の学び』を見取る」といったことを理解することは、小学校教育を行う上でも重要であることが分かりました。また、「合同学習」を行う中で、小学校においては教科のねらいを達成することに加え、教科の枠を超えて育みたい子供の姿、資質・能力を育成することの重要性を認識しました。この教科を横断して育成したい力は、「中等ブロック」「高等ブロック」においても区切りごとに整理し、カリキュラムを作る必要があります。

※ここでいう「環境」は物的環境だけでなく人や物、現象などを含めた周りの環境全てを示す。